

**製品名: PPR3D ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab16439**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	32kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PPP1R3D PPP1R6
別名	
遺伝子 ID	5509.0
SwissProt ID	O95685
免疫原	ヒトタンパク質由来の合成ペプチド。AA 範囲: 10-90

**背景**

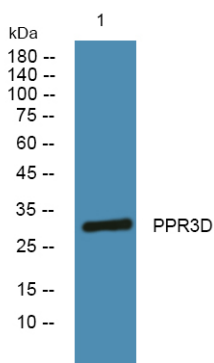
タンパク質中のセリンおよびスレオニン残基のリン酸化は、ホルモン調節から細胞分裂、さらには短期記憶に至るまで、多くの細胞機能の調節において重要なステップです。リン酸化のレベルは、タンパク質キナーゼとタンパク質ホスファターゼの相反する作用に

よって制御されます。タンパク質ホスファターゼ 1 (PP1) は、真核細胞で同定されている 4 つの主要なセリン / スレオニン特異的タンパク質ホスファターゼの 1 つです。PP1 は、細胞内局在を決定し、基質特異性を調節する様々な調節サブユニットと結合します。PP1 をグリコーゲンに標的化するサブユニットがいくつか同定されています。この遺伝子は、PP1 のグリコーゲン標的化サブユニットをコードしています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: CBM21 ドメインはグリコーゲンへの局在に関与することが知られており、ホスファターゼ複合体のいくつかの調節サブユニットの特徴です。機能: PP1 のグリコーゲン標的サブユニットとして機能すると考えられます。PP1 は細胞分裂に必須であり、グリコーゲン代謝、筋収縮、タンパク質合成の調節に関与しています。類似性: 1 つの CBM21 (炭水化物結合型 21) ドメインを含みます。サブユニット: PP1 の触媒サブユニットである PPP1CC と相互作用し、グリコーゲンと結合します。組織特異性: 試験したすべての組織で発現しました。骨格筋と心臓で高い発現が見られました。、

## 研究分野

インスリン受容体;

## 画像データ



A431 細胞溶解液のウェスタンブロット分析、PPR3D ウサギポリクローナル抗体を 1:1000 に希釈し、4°で一晩